

動めし  
 活しと  
 体楽つ  
 身も1  
 な後の  
 々業場  
 様卒の  
 い、ね  
 なは重  
 きにみ  
 で中積  
 験。験  
 経る経  
 はあ動  
 でで運  
 校場、  
 学るり、  
 常きあ  
 事日でもた  
 行がの組  
 部徒とも組  
 学生こむり  
 ・る含取  
 校はすをに  
 学事験動導  
 行経活指  
 をるて

交流運動会	(昭和63年9月12日 月曜日 県立倉吉養護学校)
	養りとでを徒たち各 吉取人え子生し持も 倉りのう様の揮気う 立よ外むの校発うほ 県度以組徒本をいる る年校り生。力とす い今本取てだとい援 てて、にしん欲た声 っして究そ組意ちと などっ研、りな勝然 行つと、場取うに自 り1にくるてよ争、だ よの徒なきしい競れう 度流生少でとな。わよ 年交。にが場れた表た 昨のる常験るられにい 、とあ非経き見ら中て が部ではなでは見のし 部等事場重がでく徒中 等高行の貴と校多生集 高校だ動にこ学が校に 校学ん運常る、面本技 本護組の非見は場が演
	交流運動会を終つて
秋季運動会	競、実がこ 、は充との 場とにこく のこちる多。 動うたせ、い 運い徒わ後た のと生わ今き とるも味。い 人せ後にたて のさ了分っし 外容終十だに 以変。を事う 校もたと行よ 本にっこるる 、なあたあて てんでっの持 っこと意味が と、こと意事 ながの感に行 ち場以上足常た たの以清非っ 徒会想・きい 生枝予感でう
	(昭和63年9月23日 金曜日 本校グラウンド)
	流み意転、しれ、保っ 交組の逆び対わく、ま 、りて、喜に表高へ高 察取しりた者でも比も 観の対たっ導葉声に識 の後にれ勝指言の年意 容今争つ、た援例のた 変ら競もたりっ声。者れ のか。でまたいのた護ら 徒較だま。れとへっ保せ 生比ん前たら」目あ、さ るの組ルっえい種がくじ よとり一な捉したの多感 に常取ゴにで悔まももと 較日とがう情「い加か 比・う走よ表」た高参い の較よ競るが！いものな と比見、すさたも心へは 会のをりりしっ徒関目で 動と題また悔や生の種の 運会議高った「るへのる の動のがあけ、く技者い 春運へ識が負てて演護て
秋季運動会を終つて	
り非のづが なはと近と と欲会にこ 色意動いむ 一・運らか 会識のねつ 動意春のを 運の、究触 が徒た研感 識生ま、う 意、れい のらるらと 体かえ得か 全といがい 校こと容な 学るた変は 、来いので はくてくの 会多っ多る 動もまはあ 運者高でつた 季護に較つた 秋保常比き出	

校外宿泊学習	(昭和63年10月25日(火)～26日(水))																						
	船体	上活	山動	登を生	山伴	やう	巨レ	大ク	迷レ	路一	なシ	どヨ	日レ	常を	な多	かく	な行	かな	出う	来こ	なも	いが多	
	き自	た然	。の	中を	徒を	た思	ちい	のき	中り	に動	はき	初回	めっ	てて	のい	経た	。行	の	生	徒	も	多	
校外宿泊学習を終って																							
	生し	徒な	たい	ちか	はな	り、	活の	動運	自運	体を	のす	魅も	力が	があ	れで	ばき	る活	大こ	人と	が設	意分	図か	
	って	たい	。き	今た	後い	、	日	常	生	活	で	も	と	が	あ	る	活	動	と	設	定	し	

### ま と め

活び良付徒はだど  
 体遊、欲生とたく  
 身路り意、こ。い  
 ・迷あにがたか  
 動、でうるきうん  
 運山ンよあでろし  
 な登ヨるはがだ楽  
 々にシめでといを  
 色特一し中こな動  
 に。レ楽のるは運思  
 徒たクがそすでら  
 生きレ徒。加のかう  
 てでい生た参いずよ  
 しが易、きに良みる  
 通ときはて事もあ  
 をこい事行て徒が  
 事くて行なでえ生要  
 行いけ。行さ捉も必  
 部て繞るし種とでる  
 学せもい定積る中み  
 ・さ後て設いあのて  
 校験業えをなで事え  
 学経卒考場に果行考  
 のを、と、で成後を  
 く場はたしまの今場  
 多のどっを今つ、う  
 動なかけは1しい